

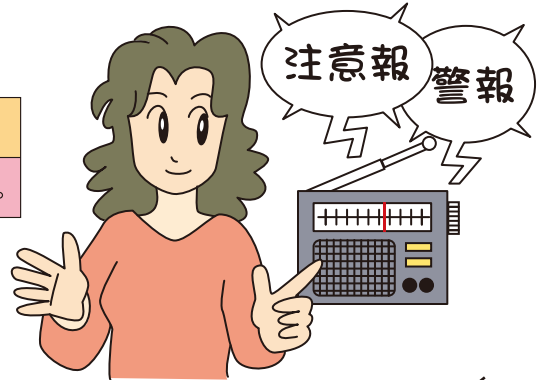
1 気象状況に注意し、早めの対応を

雨や風などの気象条件は、刻々と変化していきます。正しい情報に基づき、家族や地域が力を合わせて対応しましょう。

注意報と警報

注意報	災害がおこるおそれのあることを注意する予報。
警報	重大な災害がおこるおそれのあることを警告する予報。

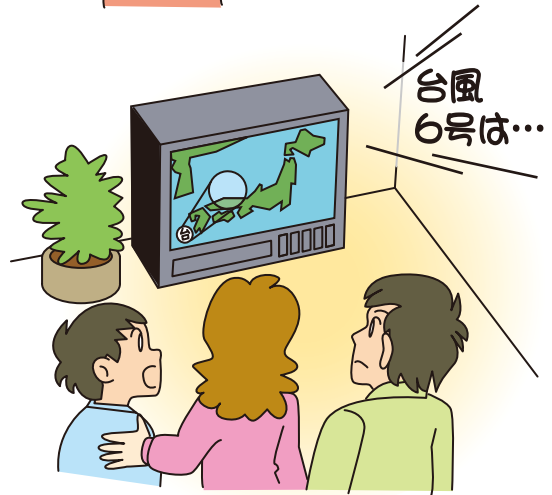
大雨や洪水などの注意報・警報が発表されたときには、以後の情報に注意し、いざというときのために備えてください。



ここがポイント 事前の備え

家庭内では

- ◆ 気象情報を聞きます。
- ◆ 状況によって遠出や外出は中止します。
- ◆ 避難場所について再確認します。
- ◆ 勤務先にいる家族などと連絡をとり非常時に備えます。
- ◆ 家財道具・食料品・ふとん・衣服などの生活に欠かせないものを安全な場所へ移動します。

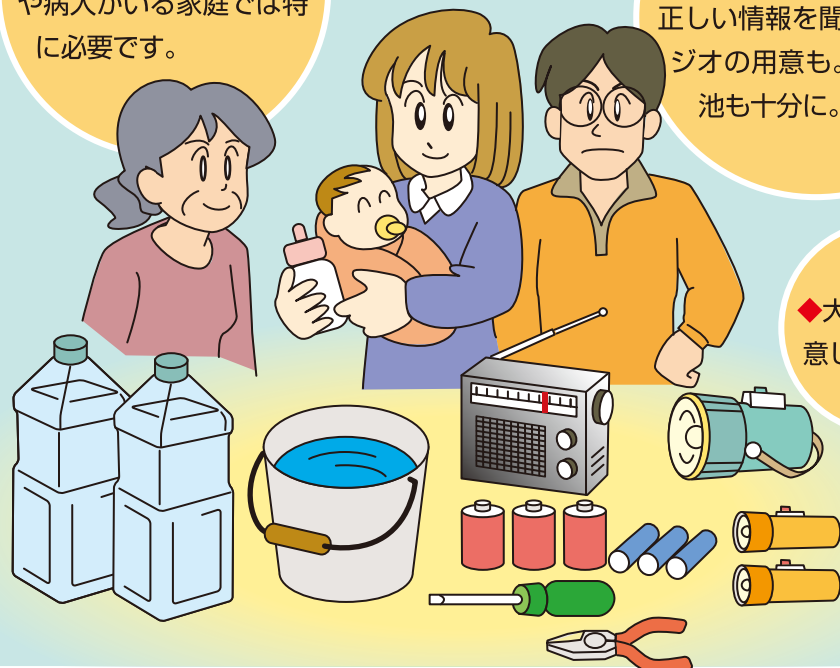


用意しておくのは

◆ 飲料水を用意して、断水に備えます。乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。

◆ 懐中電灯を家族数に応じて準備します。また、正しい情報を聞くためにラジオの用意も。予備の電池も十分に。

◆ 大工道具も用意しましょう。



大雨が降り出したら



町の防災広報に注意し、近くの川の水位にも注意しましょう。



がけ地や河川の近くでは、隣近所で声をかけ合い、早めに避難の準備をしましょう。





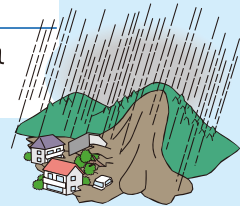
地域の防災活動に協力しましょう。

【雨の降り方と風の吹き方】

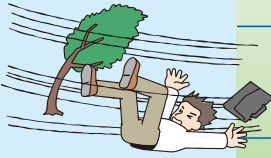
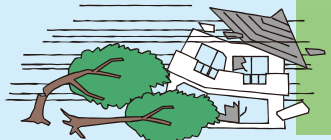
気象情報では、よく「1時間雨量○mm」「風速○m」という表現が出てきます。そのときの雨や風の強さが具体的にはどのようなものなのか、イメージしてみましょう。（以下は、いずれも気象庁資料を参考にして作成）

雨の強さと降り方 (1時間雨量：mm)

	10以上～20未満	雨の音で話し声がよく聞き取れない。
	20以上～30未満	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や、小さな川があふれる。
	30以上～50未満	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
	50以上～80未満	滝のように降る。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
	80以上～	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。



風の強さと吹き方 (平均風速：m/秒)

	10以上～15未満	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
	15以上～20未満	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。
	20以上～25未満	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
	25以上～	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

